

◇ICT活用のポイント◇

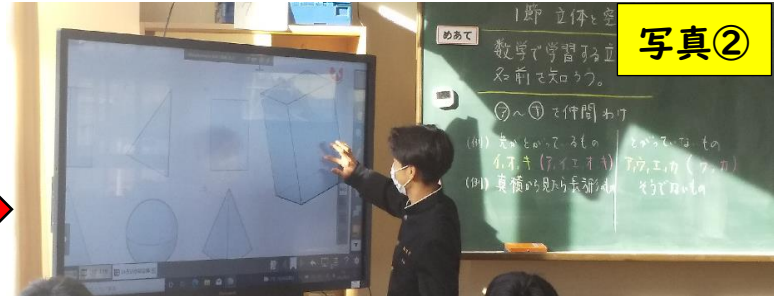
空間図形の学習では、図形の必要な部分を見取図や展開図、投影図として平面上に表現して捉えたり、平面上の表現からその図形の性質を見いだしたりすることができるように指導をしていく必要がある。そこで、「いろいろな立体」を学習する過程において ICT を活用する実践を行った。

- (1) 「いろいろな立体」の導入では、小学校で学習した空間図形の内容を振り返り、全体で共有するためにロイロノートを活用した（写真①）。学習内容の系統性を意識させるとともに、角柱・円柱・体積等、生徒の既有的知識をそろえて学習をスタートすることができた。【協働的な学び】
- (2) 展開Ⅰでは、実物と見取図の立体をつなぐために超教科書（デジタル教科書）を活用した（写真②）。見取図の方向を自由に変えられる機能を使い、苦手意識の強い生徒には実際に操作させることで「立体を平面上に表現する」ことの意味を理解させることができた。【個別最適な学び】
- (3) 展開Ⅱでは、見取図・展開図・投影図の特徴をまとめ、それぞれのよさについて考えることができるようにロイロノートを活用した（写真③）。各自が調べた特徴を共有・比較した後、図のよさについて考える活動を行うことで、主体的に思考する姿が見られた。【協働的な学び】
- (4) 「いろいろな立体」の終末では、学習内容の定着を図るためにタブレットドリルを活用した（写真④）。教科書やノートを振り返りながら解答する様子や、動画解説を見ながら学習内容を再度確認する姿が見られた。【個別最適な学び】



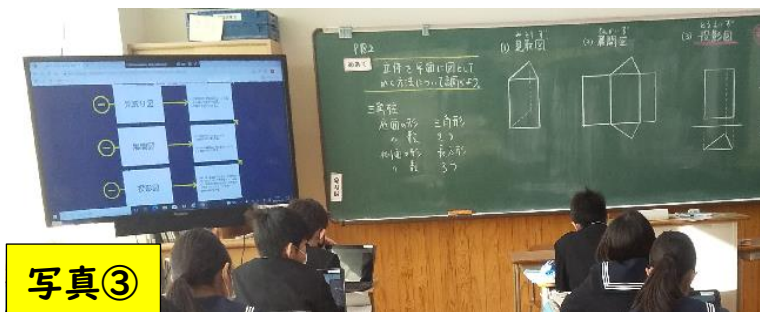
写真①

活用場面  
□導入



写真②

□展開Ⅰ



写真③

□展開Ⅱ



写真④

□終末